京城新聞

●經濟研究會 意見書
韓國實業的智識と資金

經濟思想の缺乏せる我國民の如きもの天下恐く未だ之れ有らず彼等地券を典質して借款するを知るのみ年六分低利の金を借り得て年二割高利に轉貸するを知るのみ株式組織彼等の疏頑なる頭腦に歡迎せられず共同事業は常に一二奸黠の不正手段に由りて破潰せらる畢竟我國の財界形狀は個々散漫の力量恭壘卵の如く相似て其間聯絡なく協同なし大事業の起らざる大利益の擧らざる職さして合資協同的統一無きに由る而して此統一なきは則ち經濟思想の缺乏を立證する者に非らずや

昨年後半期より今日に到る金融杜絕す是れ何の由る所ぞ此全局の窮枯を救治せんと欲せば如何の方法を用て可なるか他人能く知つて我民獨り知らざる者研究を爲さゞるの故なり年々米國より輸入する油幾何なるか上海若くは大阪より雜貨の綿布雜品を輸入するか我雜穀牛皮等幾許を輸出するか[illegible]我國に流入する資貨幾許か海外に流出する資貨殺計の差あるか全國の物產額年々幾許平均產出して人民の手幾許收利し國稅幾許假量す此の如きの問題統計を[illegible]して一見明白を得ん而して我官民亦[illegible]計表なる者の與價を解せざるなり即ち[illegible]の經濟思想の缺乏は人民のみに非ら[illegible]政府亦實に此思想に缺乏せるなり[illegible]を擧げて喋々贊々斯の如くにして尙ほ何を以て國力の發展を望まんや想て此に及ぶ每に國運の傾危徒然ならざるを知り慨嘆太息自ら禁ずる能はず

世人動もすれば資本の欠乏を說く是れ一笑に附へたり之れに給するに丘山の資金を以てするも其經濟的思想實業的智識に於て嬰兒の如きもの安ぞ此資金を活用して永久利を得て來らん我國の貧弱資金の欠乏と謂はんよりも寧ろ思想智識の欠乏なり

暴徒鎭撫は一時の問題のみ民心を實業的に歸向發揮するは我民族百年の大計なる政府大臣諸統監府諸員と民間有志と宜しく此大計を圖るに一致すべし產業組合合資會社設立の如き現在の民智に徵せば太だ早計に似たりと雖も然れども敎育の結果を待て悠々施設せんとせば則ち二三十年の時日を費して而後ならざる可からず此の如きは社稷民人の運命決して耐持する能はず且つ此思想智識や口耳に學ぶ能はず架空に生ずる能はずして必ず實地經驗より來るとせば此際政府は左手を以て民心を實業的に靡くさ同時に右手巨萬の資金を民間に散布して製產機關の設立を多々益々促進するを講ずべし則ち一は經濟界の枯渴を救ふに足り一は地方の民情を鎭撫するに足り一は以て協同事業上の智識を實地に敎導するに足る若し夫れ事業の敗跡資金の放損を豫想して躊躇逡巡時を待つが如くんば則ち是れ一商舖の牙籌大政治家に望む所以に非らざるなり聞說く「ロード、クローマー」二個年を以て埃及の水利工事を完成し埃及の財政を危願の境に救拔すと云ふ日韓當局者熱心勤勉の功「クローマー」卿の上に超過すること我二千萬人民の至心懇禱措かざる所の者也

物其平を得されば則ち鳴る義兵と云ひ暴徒と云ふ其不平激厳の原因は生命財產の安固なり難きを疑惑して然るのみ今ま政府統監府の方針實業發達に在る明々疑ひなくして官民全力を歸向する處の意指彼等に普知せされば則ち彼等必ず當に誤解を去り疑惑を釋き翻然相率て業に還る外なからんさず誰れか自ら好んで其血を流す者あらんや

右實業論說非一時過去問題一場架空演說而已、實業云々者、亦爲今日社會上常談、然初不見一者實施、則實業二字亦爲虛文、必使二千萬人精神澎漲注射於頭腦、然後乃可辨眞實業、故野頭以時代精神目之、今我韓現狀許多政治良法美規、皆屬第二第三第四以下事、第一急迫重要者、民事產業、農作廢棄、山林荒蕪、工匠拙劣、商路閉塞、所以枯涸八民束手待死、譬如人家無粒米竈無束薪、飢餓不能出門而不思辨柴米炊粥飯、獨欲整頓家伏置文房、繼入之來覗者又曰疲頭如此、何不服藥平、門延何不掃除潔淨平、其將來此人於鮑魚之肆平、故爲我韓人民者、宜捨置他事一心注目於農商工實業上、沒々如狂、孜々不休、政府及地方官吏宜早夜專心開導其實業上智識、啓發其實業上方針、貸與其實業上資本、統監府官憲、亦宜姑緩不急之務、但注意於韓民實業、赤心倡導、至誠贊助、使韓民曉然知日本之指導伏籌斷々出於勸我業活我民、則其實業之精神、當一層奮發、積猶疑迷、如雲消霧釋、今日最切最要之急務、實有過於此者也、願我人民及政府官吏、統監府官憲之覽之者、勿以一場演說覽認、而以一片精誠滴血觀之爲、（完）

●賊徒討伐情況

△忠淸北道陰城守備隊より派遣せる少尉以下二十二名は九月十日陰城西南約二里半妙村附近にて約四十の賊を攻擊し其二十を殪す△全羅北道全州守備隊の討伐隊は九月十一日泰山東南約二里半にて約三十の賊を夜襲し[illegible]を殪す△平山北濟[illegible]站憲兵分遣所下士以下十一名は八月廿八日江界郡柏坪舖にて二十余名の賊を擊退し其四を殪し火繩銃八雜品若干を鹵獲す△忠淸南道笠浦守憲兵分遣所上等兵一補助員三は八月廿四日保寧郡隱山洞にて保寧憲兵分遣所の應援兵四名と共に約七十の賊と交戰し其二を殪し雜品若干を鹵獲す△平安南道孟山憲兵分遣所の憲兵は孟山守備隊及警察官と協同し八月卅一日同郡內防上洞にて九名の賊と衝突し其四を殪し銃器三雜品若干を鹵獲す△江原道金城憲兵分遣所の上等兵　補助員四は九月一日同地守備隊並に加里赤にて約五十の賊に追及之が擊追し其六を殪し火繩銃六を鹵獲す△全羅南道順天警察署巡查は憲兵及補助員と共に八月五日光陽郡內にて十三名の賊を討ち其一を殪し之を追擊中更に約六十の賊と衝突し其十二を殪し銃器二刀三其他雜品若干を鹵獲す△平安南道三登憲兵分遣所上等兵一補助員四名は同地守備隊と協同し九月四日陽春里にて約四十の賊を擊追し其二を殪し銃器十五其他雜品若干を鹵獲す△全羅南道平安憲兵分遣所上等兵七補助員十は七月廿九日寶城郡寒深村に宿泊中の賊三十を攻擊し其八を殪し銃器五を鹵獲す

●京義沿線の商工業
（小川農商工部事務官談）

▲開城　は高麗の舊都さして有名なる地なれども商取引の地に非ず此の地に入る物資は其の附近村落に於て消費せらるゝものゝみにして取引額は極めて僅少なる如し然れども此の地には他の地方に於て稀なる資本家あり又此の地の人民は所謂開城商人として全國各地重なる地方に店舖を開きて商業を營める事恰も日本に於ける江州商人の如く此等の商人は此の地の資產家より資本金の融通を受け毎年二回同地より歸り來りて計算をなすものにて此時は同地に於ける銀行を利用して各地の取引をなすものあり地方人の爲替取引額約五十萬圓に達し此れに一年二回の計算取引を合すれば多額に上るべしと云ふ而して此の地の商人は信用を重んじ商業上の道德に厚き事他地方に優り農工銀行に於て數万圓の貸付をなすに未だ一も其の期日を愆りたるものなく大に感ずべきなりと云へり如斯此の地に資產家あり地の人民が商業に熱心なるは此の地は高麗朝の遺臣として李朝に重んぜられず李朝より排斥せらるゝを以て一般に實業に從事したると此の地は有名なる高麗人蔘の產地にして久しく此れが取引によりて利益を博せしとによると云ふ

（○文苑）
秋雨むら（一）

秋ばれや曙あかね雲の色　む

今朝武州浦和なる岸上香摘より狀著せり內に「荊妻病臥[illegible]ウツ言は聞かされる見には泣かれる秋風落寞、獨目寂寥なるもの也、

秋風や妻病む宿の茄子漬　香

との一節あり結繫するだに猶は堪え難き思ひあり。

病む妻の乳に泣く兒や秋の夕　む

「民長問題大分ス釜激閙へ候へども結果如何成行く事にや、日本人の通弊たる泣寐入に終らざるやう致し度し、是は操觚者の責任也」と。然れども又居留民の腰付き如何に依りて決定すべき問題也とは思さずや。

雲遠近心元なし秋の空　む

「京城の秋光奈何に候や、小弟が庭は十數株の秋咲き[illegible]申候、夜は鈴虫も鳴き申候、雨戶を明けて置けば蚊帳にも來て鳴き申候」と、羨望に堪えず、小子近者其風流なく鷄を養ひ居り候、但し漸く六羽なり。

秋雨や流しにならぶ鷄六羽　む

「野にも林にも秋は來れり、雜木林には漸く茸が生え來り申候。仕立屋（下宿屋）の二階時代を聯想致し候、彼の時代が花にて候ひしよ」と。寶にく

秋の雨將に白髮を見出しけり　香

屁を放つて一人は淋し秋の雨　む

俳句
白露集

川狩を見て居る嫗の日傘哉　湖東
祇園祭り花の都の日傘哉　櫻水
青田十里山業に水清し　田柿
晒井や夕顏の花白けなり　同
晒井に厭裡の白壁汚しけり　湖東
夕顏の下に月見る納凉かな　三瓢
雨やんでまた持ち出す納凉臺　松花
殘月の古城に凉みて秋近し　湖東

佳作

川風のなぶる渡船の日傘哉　田柿
象好の机に底す蟬の聲　湖東
朝顏や起出し裾の長みじか　可醉
鳥一羽青田かすめて山に入る　湖東
納凉人散りて塵場の月高し　田柿
夏の月木を拍つ人の小唄哉　可醉

秀逸

流行とや都朝顏裙模樣　松花
晒井や水神に盛る土器古し　三瓢
女郞花嵯峨野に通ふ岐れみち　可醉



（十八）　川合柳葉

山川宗匠が讀下した書面の文は、

豫々好時機あれかしと新居候甲斐ありて東京なる珍客病氣保養を兼ね、不日來京の旨通知越候に付御歡び被下度候これに就き色々御相談申上度事も有之候得ば、兩三日中に御來遊待入候早々

七月十五日　雅數

[illegible]

と、記してあつた、局外の者には要領を得ぬ書面ながら、山川には能く其の意味が解せられたものと見え愉快さうな顏色で何度も繰返して眺めて居たが、忽ちバリ〳〵と寸斷して有合ふ烟草盆の吐月峰の中に投げ込むだ、そして莞爾と笑ひを見て、

「大分面黑くなつて來たわい、サア前祝に一杯注いで下れ。」と、盃を出せばれ君は酌をしながら、

「大層元氣が出たやうですが、前祝つて何かれ麗い事があるんです。」

「ハヽヽ、まだこれまでおれ前にも知らせずに秘して置たが、モウ話うなりや何も彼も打明けて、れ前に是非とも片相手を爲て貰はんけりやならない。」

「何を始めなさるんです。」

「何をツて今の書面の一件よ。」

「あら、今の書面の一件たつて、何が書てあつたか私見やしないぢやありませんか、一体何處から來たんです。」

「ハヽヽ、こいつあ有理だ、見ない書面の解る理はない、あの書面か、あれはね宇治の御室と云ふ人から來たんだ。」

「御室つて何爲る人なの。」

「この御室と云ふのは、彼の有名な華族の御室侯爵の御子息なんだ。」

「へゑ、御室侯爵の若樣なんかゞ、奈何して宇治のやうな所へ來て被在るの。」

「サ、其處だ、れ前でも不思議に思ふだらう、誰だつて不思議に思はんものはない、所がこれに就いて種々入組んだ事情があるんだ、なか〳〵ツイ一朝一夕に話す譯には行かんから、これはいづれ近日又寬り話して聞かさうが、一口に摘んで云へば、此の雅數と云ふ方は妾腹の弟で、當時御室家の主人と云ふは正腹の兄なんだ、そこで兄なり正腹に當る母なりが沒義道な待遇をして早く云へば宇治へ僅かばかりの財產を遣つて追出して了つたんだ、それをだ、それを這度私が黑幕に入つて、一つ大芝居を打つて宇治に居る雅數を世に出さうと云ふのだ、それに就いては奈何しても女形の腕利役者がなくつては芝居が脚色ないから、是非れ前に其腕利役者に廻つて貰はなきやならないんだ、今來た手紙と云ふのも此事なんだ、[illegible]そうな、そこで先づ夫れを序幕にボツボツ芝居を始めやうと云ふのだが、其芝居に就いて略荒筋だけは考へてあるから、二三日中に宇治に行つて何能く相談した上で、れ前とも相談する事に爲やう、道奴を旨く仕遂たら表面は華族の家令、其實は侯爵家の總顧問、四五百萬の財產を我任意自由に爲れやうと云ふ寸法さ、前祝と云ふのは玆の事さ、どうかれ前も確り行つて下れ賴むよ。」

「隨分大きな芝居を脚案なすつたのね、私のやうな未熟な腕で那樣大役が勤まるか奈何かは知らないけれど、然ういふ大役が性質好きだから、貴方を便りに腕に撚をかけて勤めて見せう、若か失策た所で此の命を棄てると覺悟してりや間違ひはないでせよう。」と、嫣然と山川の顏を見た。



京城新報

貨幣の統一

葉錢及雜貨の處分

韓國貨幣制度の改善統一は方今の急務なり當局者亦夙に此事に努めらるゝ所あるべしと雖も、韓國の如き貨幣制度の紊亂なりし國に於ては之を改革し其統一を圖るには思ひ切たる英斷を下さざれば容易に成蹟を擧る能はざるなり、帝國統監當時の財政改革を顧るに、驚く可き急進政策を取り、鋭意斷行以て改善したるの狀態は世人をして驚目せしめたるも、守舊固老の徒は其急進を目して盲者の蛇を怖れざるが如しと惡評したりき、深く洞察したる積弊を改革するには總て於て大英斷を下さざる可らず、韓國の事總て大英斷を要すと雖も、貨幣制度[illegible]に大關係あるを以て急速に施設せざる可らず。

韓國現時の流通貨幣を見るに甚だ雜駁なり第一銀行券の流通は漸次其區域を擴めつゝあるも、通融なく流通する所は京城附近と開港場附近に過ぎず、之を換言すれば日本人の勢力ある範圍の地に流通せるのみ、忠淸全羅慶尙南道の如き米穀の產地にして、日本商人との取引最も多き地方に於てすら第一銀行券の流通少く今尙ほ殆ど葉錢に非ざれば其取引面倒なるに非ずや、元山港以北に於ては今尙ほ露國貨幣の流通額々たり鴨綠江附近に於ては馬蹄銀は通常貨幣の如くに流通し居れり、此等數種の流通高を聞くに第一銀行券は約八百萬圓、葉錢及補助貨は各三百萬圓以上、露貨は約百萬留以上馬蹄銀に至りては未だ聞くを得ざれども其額僅少なるべし、而して此等異種の貨幣の流通は各特種の關係ありて流通せるなり、南韓地方の葉錢流通は守舊思想によりて新貨幣を喜ばざると、大勢を知らずして新貨幣を信ぜざるが爲なり、其守舊思想は葉錢に非ざれば貨幣の如く感ぜざるに因るなり葉錢は世人の知る如く米穀の市場に乘るときは其相場昂騰し、平時二十割の相場は廿三割若しくは廿五割に上騰することあり、平時に於ても諸種の取引緩漫なるときは十八割位に下落する事あり、斯の如く其相場に激變あるを以て貨幣としては最も不安全なれども、地方人民が今尙好んで流通せらるゝは永き習慣に依て之等の不安を感ぜざるに依る然れども斯る價格に變動あるものは決して貨幣として流通せしむ可らず、貨幣價格の變動は商品取引に甚だ面倒を生じ延て貿易上に多大の惡影響を與ふる可し殊に租稅徵收の上にも少からざる不便のみならず、收入支出共に一定する能はざるの結果を見るに至らん、北韓地方に於ける露貨の流通は全然之と趣を異にして最初は商業取引上の便宜より來りてハ終に之を信用するに至れるなり、是亦相場の高低ありて支那商人の如きは其高低を利用して利益を得るもの少からず、何れにしても斯る異種雜駁の貨幣を流通せしむるは財政を理する所以の道にあらず、宜しく此等を排除して流通貨幣の統一を圖らざる可からず、然れども之を排除するに法律を以て罰するが如きは非なり、如何に法律を以て制裁するも之が現存する間は容易に之を排除し得らるべきものに非ず、葉錢の如きは市場取引以上の相場を以て第一銀行券と交換し、租稅の徵收にも等しく相場以上の價格を以てするに至らば其吸集は容易ならん、露貨の如きも此方法によりて交換すれば可なり、斯くして爾後の取締を勵行すれば茲に於て貨幣の統一は爲し得らるべきなり、要するに之を交換するに市場取引以上の相場を以てするの英斷なかる可らず、然るに頃者南韓の[illegible]上の取引を嚴禁する旨布達せりと、斯の如きは徒勞のみ既に葉錢なるものの現存する以上は如何に之を嚴禁するとも到底行はるべきものにあらず、當局者は此際姑息の手段を採らずして、余輩が說く處の交換法に依りて統一策を講ぜらるべきなり。

對星樓茶話

▲本年に於ける統監政治の著大なるものを擧ぐれば地方官の改革なり、裁判所の設定なり、元老會合なり、官撰民長なり、ベッセルの裁判事件なり、梁起鐸の公判事件なり、補助憲兵隊の組織なり、何れも試驗中に屬して何れも合格不合格は未知數なりとせらる。

▲拓殖會社創立委員(韓側)中宋內相は其十分の七を推擧し、李總理は其三分を推擧せり。

▲ヨボ大臣の面前に於て平伏頓首せる日本人は益增加せりと聞及候。

▲伊[illegible]公は日米國交の親善を表するために母國に[illegible]りて米艦隊の歡迎委員長となるべく傳ら[illegible]

▲韓の宮[illegible]交術中に於て他國の功臣の位牌まで利用したるは非尋常の事に候。

▲數日前韓人來り問ふて曰く日本帝國は帝國主義を方針とせる乎、文明主義を目的とせるや、吾人反問して曰く韓國は事大主義を喜ぶ乎、抗大主義を欲する乎。

▲寄付金、饋贈等に於て韓人は確かに日本人よりも過大也、優大也。

▲六十路の韓翁哀求して曰く希くば拓殖會社の事務員に周旋せよと、而かも此翁正二品也。

▲三千年間韓半島に於ける文物は殘肴冷盃のみ。

東京電報

伊藤公の歸磯

井上侯病氣看護の爲め興津に滯在中なりし伊藤統監には本日一先大磯に歸られたり

▲韓國委員の參觀

韓國側拓殖會社委員一行は小山通譯に伴はれ日本銀行に行き松尾總裁に會見し右室を視て歸途三越吳服店に立寄り歸宿す尙一行は十七日司法省砲兵工廠十六日印刷局盲啞學校十九日橫須賀造船廠及海兵團を見る(以上十六日發)

▲兩將軍の昇任說

韓國駐劄軍參謀長陸軍少將牟田敬九郎統監府附武官陸軍少將村田惇氏は來月末陸軍中將に昇任すべし

▲大久保少將の渡韓目的

曩きに韓國に派遣せられたる陸地測量部長大久保少將は二十二日出發の筈なるが其目的は秘密に附せられつゝあるも露淸韓國境視察にあることは疑ふべからず(十七日發)

▲協約功勞者行賞

日韓協約の功に依り本日左の通り敍勳ありたり

敍勳三等授旭日中綬章　統監府秘書官　國分象太郎
同　古谷久綱
敍勳四等旭日小綬章　統監府通譯官　藤波義貫
敍勳七等授青色桐葉章　新藤信吉
敍勳八等授白色桐葉章　青山淺次郎
銀盃一個下賜

雜報

●韓皇の水原行幸

韓皇帝には近々中水原府に行幸あり華山の各王陵を展せらるゝ筈にて宮內次官小宮三保松氏は華山王陵檢分の爲め昨日水原に出張されたり

●駐韓部隊交代

韓國守備隊の交代は陸軍省工兵課の輸送計畫成りたるを以て陸軍大臣は十四日該輸送計畫書を添へ第六師團に渡韓命令を、第十三師團には歸還命令を發したり而して第六師團の渡韓は十月十六日頃より輸送を開始し第十三師團は第六師團上陸後內地に引上ぐる計畫なれば第十三師團の乘船は十月二十日頃より開始すべしと

●無意味の諭達

葉錢相場に關し

木浦理事廳中大路理事官は葉錢相場取締に關し左の如き諭達文を發せり

葉錢の通用價格及交換制限の制定に關し本年七月二十九日付を以て當廳諭達第一號を以て一般に周知候處在留邦人に於て往々公定價格以上の相場を立て之が取引を爲し且其相場を新聞紙に廣告するもの有之哉に相聞へ候既に韓國の法令を以て法貨と定めたる以上は在留本邦人と雖も之を貨物と見做し取引すべきものにあらざるは勿論其通用價格及制限を無視する如きは韓國貨幣整理上重大の故障となり遂に制度を攪亂するの怖あるに付自今斯如ものに對しては相當の處置すべき旨統監府より通牒有之候條可然御取計相成度此段及通牒候也

明治四十一年九月一日
木浦在勤
理事廳理事官　中大路正雄

思ふに一片の諭達位にて實際取引相場より安き公定交換價格を維持し得べしと信ずるは愚の至りにして統監府當局者の思想の單純なるには只呆るゝの外なし

●御前揮毫の摸樣

一昨日午前十時半曾禰副統監は來韓中の畫家佐久間鐵園氏を伴ひ德壽宮に參內し太皇帝の御前に於て鐵園氏の揮毫を御覽に供したる事は昨報の如くなるが今其の概況を聞くに當日は各皇族各大臣祗候官及び其の他多數の大官も參內して謁見の後咸寧殿に於て一同陪觀の上花鳥山水等の御前揮毫を試み正午洋食を饗せられ午後も引續き多數の揮毫をなし特に當日參內せしめられたる韓人書工安中植金圭鎭の兩氏と共に九如と稱する山水畫の合作ありしが太皇帝は非常なる興味を以て熱心に御覽ありて遂に午後六時五分に及びて一同退出したる由なるが太[illegible]

●韓國視察隊

東京時事新報の主催に係る韓國視察隊は其加入人員已に二百名に達したるを以て來る廿五日頃東都を發し當地に向ふべしとの事なり

●第三回梁起鐸公判(續)

證人ベッセルの訊問

裁判長は預金に關する訊問を繼續して詳細に入れり證人の答辯は次第に亂れんとす

(長)コールブランボストウイック銀行には如何なる條件にて預金せしか
(べ)預主は私にて初めは定期預金に非ざりしを以て無利息なりしも後定期として利子は年二步とせり
(長)何故證人の名義とせしか
(べ)其の外に方法なきを以てなり其の金は私に對して送られたるものなれば私の名義とし私の自由となす權利ありと信じたり

斷然して義捐したる報償金は如斯にして證人等の勝手に處分せられたるなり韓民は好い面の皮かなベッセルは此の時訊問外の陳述をなして曰く『私の考ふる所にては梁が受取たる金を私に引繼ぎたる後は梁は何等の關係なき如し即ち梁は私の雇人として取扱ひたる金を私に引渡してより責任なしと信ず』と裁判長は此れに對しては『人各々意見を異にす』と答へて訊問を續く

(長)證人は其の金の內三萬二千餘圓を總會所に引繼ぎたりと云ふ右は現金を渡したるか
(べ)引繼の時私より小切手を出し銀行は其の金額を總會所の預金に書き換へたるなり
(長)報償金を證人梁外二人の名義にて上海香港銀行に預けたる事ありや
(べ)梁等三人より私に三万圓の小切手を渡したり此れを同銀行に預けたるなり
(長)其の金は今銀行に在りや
(べ)引出したるものあり
(長)其の金は右の四人同意に非されば引出し得ざるものに非ざるが其の手續をなせしか
(べ)否私一人にて引出したり
(長)四人同意に非ずして證人一人が引出す權利ありしか
(べ)預金は四人の名を以てせしに非ず私一人の名義なりき故に私一人にて引出す事を得
(長)他の關係者の言によれば四人の名にて預けありしと云ふ相違には非ざるか
(べ)私は考へ違ひなし此の通帳に示す如し(とて此の時預金通帳を示す)

裁判長は右の通帳を手にし『コールブランボストウイック銀行に預けたる通帳を持てるか』を問ふ證人は此の時『私は此の報償金に就き公なる知識を有せず』と述べ『此の手紙はコールブランボストウイック銀行より總合所に宛てたるものなり』とて一紙片を出す此の手紙には『千九百八年五月三十日貴下の現在預金は一萬二千九百七十八圓六十七錢にして新しき方の座へ振替へられたり云々』の意味を記せるものなり裁判長は此の金額は六萬幾圓の內に含まるべきものなるやと問ひしに證人は預金帳を出して此れを示し裁判長は證人の承諾を得て此の通帳を預りたり夫れより訊問は仁川なる上海香港銀行代理店の預金を引出して佛人マ[illegible]

(長)證人は上海香港銀行に預けたる報償金を引出して此れをマーランに貸與したるか
(べ)然り五千圓
(長)二萬七千五百圓に非ずや
(べ)五千圓の外は毎日申報社より貸したるものなり

此の時ベッセルは總合所と社との計算及び預金の計算に關して說明せしも要領を得ず殊に五千圓の外二万餘圓は社より貸したりと云ふ金の性質不明瞭なりしも此の點は後檢事より訊問せられたり

(未完)

●ブランケ氏の談

倫敦に本店を有する世界漫遊旅客案內所『トーマス、クック、アンドソン』商會の東洋各地支店に於て韓國鐵道に對する乘車券の代理發賣を爲すことは既報の通なるが今回同商會香港支店の東洋總支配人『エヌエフ、ブランケ』氏は滿韓に於ける鐵道の實地視察として本月十二日釜山より入京し大屋鐵道管理局長官及岡運輸部長等と會見し種々打合せを爲すところありしが同氏は十四日仁川を經て大連に向ひ出發せり同氏は職務上鐵道船舶等の交通機關に對し特に視察の趣味を有し釜山よりの途中相當時間ある停車場には必らずプラットホームに下車して機關車の種類客車の構造及連結數等精細なる注意を拂ひ乘車中も食堂車の模樣、列車の速力、又は運轉中の動搖等專門家も及ばざるの觀察を爲したるもの如し今世界漫遊家の待遇等に關し同氏の談るところ左の如し韓國鐵道の發達と云ひ自己の止宿したる『ホテルアストルハウス』の結搆と云ひ余の豫想外とするところにして歐米人をして漫遊せしむるも何等の不便なるなし然れども南滿安奉線の改築成りて廣軌列車を通ずるまでは京義線に依り滿韓を旅行するもの少かるべきに付是非仁川を基點とし滿韓の船車連絡輸送を確實ならしむる目的を以て仁川大連間に於ける交通船を完備せしむるの必要あり且仁川港に於ける船舶の發着豫定表は兎角實際と伴はず『ホテル』等に於ても確實なる出航時刻を旅客に知らしむること困難なるを以て之等は深船會社に於て其發着時刻を確實に容易に知り得べきことに努め以て旅客をして前途の旅行に安心を與へんことは最も必要なるべしと信ず又京城に於ける[illegible]宮の拜觀は水曜及日曜の外許されざるも漫遊旅客の如き之が爲め無用の滯在を爲さゝるべからざるに付拜觀料は五十錢位納付せしむることゝし平日に於ても拜觀を許さるゝことゝならば便利なるべし尙香港着の上其の視察事項に付詳細倫敦本社に報告する積りにて本社に於ては大に滿韓の狀態を世界に紹介し漫遊旅客の便を圖るべし之に因る右『トーマス、クック』商會の外尙鐵道管理局乘車券代理發賣の關係ある萬國寢臺車會社東洋支配人『ダーチル』氏も十六日釜山より急行[illegible]せを爲したる上は京義安奉線を經て西比利亞鐵道に依り巴里本社に旅行する由今後は之等有力者の手に依りて漸く滿韓の異狀態を世界に紹介せらるゝに至るならん

●關釜連絡船隔日運航

關釜連絡船對馬丸機關掃除の爲め昨十六日(下の關着限り)より向ふ十日間休航に就ては當航の分に限り壹岐丸一隻にて偶數日釜山出港に付き京城仁川方面及京義線より內地行の旅客は奇數日の夜行列車に乘車すれば都合よく接續することを得べし但し夜航は從前通りなり

●倉庫仁川支店の營業革新

韓國倉庫仁川支店の上半期決算が損失に終りたるを以て一時仁川支店は休業をなすべしと傳へられたるが其後同支店長原信太郎氏は支店維持につき種々研究の結果委託販賣及運送業をも兼ぬることゝなり倉庫業に關しては從來の如く金融機關を本位とせる佛國流の營業方針を更めて英國に於ける倉庫業の如く賣買主義を執り倉庫內にて自由に賣買せしむる方針を執る由なり

●運輸狀況視察

福井縣人松原榮氏は去る三十二年農商務省の囑託に依り露領浦鹽ハバロフスク及び韓國各地商業の視察をなし爾來十餘年間歐州、滿州、西比利亞地方の視察調査に從事したりしが今回日本全國運輸聯合會の囑託に應し韓國運輸狀況視察として十六日來京し斯業關係者を歷訪しつゝあり尙同氏は當分鷺梁津なる月波亭に僑居し九十の兩月間京釜、京義線主要驛を巡回し運輸に關する全般の調査をなす筈なりといふ

●仁川市內郵便所管轄替　仁川市內郵便所は從來統監府通信管理局の直轄なりしが來月一日より同地郵便局の管轄に移さる由

●信夫理事官の晚餐會　昨夜信夫理事官は千早艦長以下各水雷艇長を理事廳に招待し慰勞の晚餐會を催したる筈

●俵次官の歸任　家兄覺次氏の訃報に接し歸國中なりし學部次官俵孫一氏は一昨夜歸京せり

●權藤四郎助氏　宮內府財政整理局事務官の同氏は今回內事院に轉じ理事となれり

公人私人

▲時尾善次郎氏(統監府營林廠長工兵大佐)は一昨日安東縣へ赴任せり
▲村田常一氏(水雷艇三十六號艇長海軍少尉)は一昨日入京天眞樓に投宿せり
▲向坂賢氏(同海軍少軍醫)同上
▲相田信吉(同海軍機關中尉)同上
▲ゲローズデルスユー伯(和蘭國貴族)は一昨日入京巴城館に投宿せり

●近事片々

▲近時●　祖國に於て統監政治を批難するの聲稍々高し其言ふ處最も至極で思はるゝ也
▲韓國●　政府の爲す所は統監府の指揮に依る故に韓國政府の失政は統監府の失政なり[illegible]
▲統監●　府が漸次韓國化せらるゝの傾あるに非ざる乎と慨歎する者多しと或は然らん
▲[illegible]●　務の無能放逸殆ど極に達し統監府の威信を損するの情況を心配せるあり
▲伊藤●　統監の辭任は宋內相の存亡に關する爲に智辨を揮て其辭任を喰ひ止めたりと
▲是は●　余り穿ち過ぎたる說にして取るに足らざるも政界の一角には斯る說もある也
▲東拓●　委員日本側の任命有其顏觸を見れば總の方面を網羅せるは例に依り例の如し
▲政黨●　員銀行家理財學者實業家等なれども眞正の韓國事情に通ずる者は一人もなし
▲韓皇●　近々水原に行啓せらるべしと聞く小松次官は其檢分として出張せられたりと
▲勸業●　銀行の設置の說は夙に聞く處なりしが今尙伊藤公の許に調査中なりとの事也
▲東拓●　社と同時頃に設置せらるべく期待したるに今に調査中とは些と呆然の氣味
▲本月●　十五日出發との說ありし統監公は井上侯の枕頭に在りて來任の噂は一寸立消
▲此處●　四五日の中には愈々赴任との電報あらん兎に角公の態度定らずば總て定らず
▲曾禰●　子は入閣するとか方針一變とか何だか韓だか眞暗闇統監政治も是では困る也
▲これ先●　眞闇にては上下一樣浮き腰にて薩つ張り乘氣になれず是では大陸經營もダメ
▲露國●　外相更迭の說ありウイッテ伯外相となりイズオルスキーは駐獨大使たらんと
▲ウ伯●　の外相は列國の注目する所とならん其外交或は一變すると共に活氣生せん乎
▲小村●　伯とウ伯何等の緣かある兩人今後の活動はポーツマスよりも却て興味あらん
▲佛國●　の保護領チュニス人民も例の流行に連れて憲法發布を要求し始めたりと云ふ
▲獨逸●　軍用輕氣球は十三時間を無事に飛行して國民に喝采せらるゝと進步驚く可し
▲醫界●　の奇傑金杉ドクトル鐵道驛夫と語て歎じて曰く日本では大臣も驛夫も同一也
▲智識●　の普及に今更驚き驛夫も大臣も其智識の發展なしと[illegible]

短篇小說

舊友（二）

脊楓作

斷崖上の黑影は何者であらう、聞かば深き仔細もあるであらう、いでや一番押へて與れんと、笛の主は、ソッと崖の後方に身を潜め息を殺して、黑影の始終の動作を見て居たのである、軈て黑影のアワヤ身を投げんとした其の瞬間、笛の主は矢庭に飛び込んで、男を抱き締めた。

「早まるな」

「誰だ、我が死出を邪魔する者は」

「人命は貴重だ、七十二文では買へんぞ」

「エヽッ放さんか、此等ッ放せ」

「放して堪るものか」

放せ放さぬで、爭ふこと數分間、纔て眠れたかと思ふ間に、二人は重なり合つた儘ゴロ〳〵と草の上に轉げ落つた、笛の主は先づこれで安心と、漸く手を放して立上つた、そうして洋服の男を助け起してやるのである、二人は塵を拂ひ互に顔を見合して喫驚。

「ヤア」

「ヤア」

ヤアの一言は、音語としては實に單純なるものであるが。

「細田、何うした、久濶じやないか」

笛の主が言ふと

「村上、奇しき因緣だなア」

洋服の男は、村上の手を握つた。

「兎も角くも僕の家へ行かう、此處では話も出來んからな、併し君とは意外だつた」

二人は、連れ立つて電車道にと急ぐのであつた。

洋服の男は、細田正とて笛の主なる村上義雄とは、曾て早稻田大學同窓の友であつた、細田は文科に席をおき、村上は政科に在つて共に首席を占めて居たのである、卅五年の春であつたか、第二の學期試驗も濟んで、愈々明日は成績の發表だと一同は樂みにして待つて居た、恰度其の前の日突然細田の姿が見ゑなくなつた、村上は細田の止宿して居た新聲館に行つて、主人に聞いたが殆ど要領を得ないので、今度は部屋を檢查て見たが、矢張手掛がない、ハテ何うしたものかと、八方手を盡して探したが何處へ行つたものやら、杳として音容に接しなかつた、其の中に村上は學校を卒業して多年の宿望たる高等文官にも合格した、一介の貧生は一躍して官界の順潮に棹した、間もなく妻を迎へて新郎新婦は、得意滿々たるの時、細田は芝の櫻川町に、孤影落莫たるの生涯を送つて居たのである。其の後卅七八年日露戰爭の酣なる頃、日本社會黨員は萬國社會黨と氣脈を通じて、一層口に筆に縱橫無盡に萬丈の氣燄を吐いた、此の黨員中而も血あり、涙ある辯士として、將た遂筆家として迎へられた無位の青年荒畑誠とは、知る人ぞ知る即ち細田正が世を忍ぶ假の名であつた。

ポーツマウスの談判は、幾なくも全國民の憤慨の的となつた際に東京市民は最も猛烈を極めた、その結果燒打騷擾事件となり殺氣の下に戒嚴令は布かれる、名士は續々として拘引されるので市内は鼎の湧くようであつた、此の時細田は秩序紊亂の名の下に突如として、鐵窓ホノ暗き囚屋に繫がれた、或る日のこと村上は、市ヶ谷監獄に細田を訪れた、併し細田はフロックコートの村上を見て顔を蹙めた、开して多くを語らなかつたのであり。

●電話規則改正

今回統監府令第三十七號を以て改正電話規則を發布せられたるが其改正要點を掲ぐれば

▲電話加入區域外の加入　從來は電話の加入は一定の區域を限定し此區域外に於ては一般に加入を許さゞるの原則なりしも改正規則に於ては其筋の認可を受け且つ區域外に屬する線路建設の費用を提供し且其維持料を納付するときは特に右區域外と雖も加入することを得るに至れり

△費用提供者の特急架設　從來に於ては豫算の關係に依り或る豫定數以上の加入は縱令何程急設を望まるゝも如何ともなすを得ざりしも改正規則に於ては線條及機器等一切の設備を自辨し其筋の認可を受くるときは交換器の收容に差支なき程度迄は特急加入し得ることゝなれり

△市外通話料と使用料の改正　改正規則の發布と同時に韓國各地の事情に鑑み左記の市外電話の料金低減を斷行したり

（區域）	（現行）	（改正）	（減）
京城 龍山…平壤間	一、〇〇〇	、七〇〇	、三〇〇
釜山 釜山鎮 東萊…大邱間	、六〇〇	、四〇〇	、二〇〇
馬山…大邱間	、五〇〇	、四〇〇	、一〇〇
海州…延安間	、三〇〇	、二〇〇	、一〇〇
木浦…光州間	、三〇〇	、二〇〇	、一〇〇
江景…群山間	、四〇〇	、三〇〇	、一〇〇
咸興…西湖津間	、三〇〇	、二〇〇	、一〇〇
釜山…東萊間	、一五〇	、一〇〇	、〇五〇
龍山…麻浦間	、一〇〇	、〇五〇	、〇五〇

右市外通話料の低減と共に京城に於ける電話使用料等の改正をなしたるが之れは多大の費用を投じ電話交換機を變更したるに伴ひ在來に比し多くの維持費を要することゝなり又方電話の障碍を減少し又通話の改良其他御話中を少なくする等使用者の利便を增進したるが爲め他地方との權衡を計り使用料は月額僅かに壹圓を高むることゝし同時に登記料の十圓を十五圓に改正せり右は唯だ京城のみに限り其他の土地は從來と異なることなし

▲電話番號掲載方法の均一　從來の電話番號掲載方法は加入者の屋號又は氏名等を適宜數個所とも掲載せしも斯くては手數と經費とを要するのみならず公平を缺く場合も尠なからざるにつき改正規則に於ては氏名いろは別の部に一ヶ所と職業別の部に一ヶ所掲載若し二ヶ所以上掲載を望まるゝものは一ヶ所に付年額一圓八十錢の掲載料の支拂を要することゝなれり

右の外改正事項少なからざるも其重なるものは前記の如し詳細は當該郵便局にて問合はさば判明すべし

●熊本縣人懇親會

京城在留熊本縣人の團体たる熊本人會にては來る二十七日の日曜を期し秋季懇親會を開催する筈なり因みに當日は清正公三百年祭寄附募集の爲め目下來韓中の飽託郡長美濃部篤行氏も臨場せらるゝと云ふ

●四十男の妾狂ひ

人はさま〴〵世はいろ〳〵なれど友白髮迄契を結びし罪なき女房を離緣し尙に切つても切れぬ緣ある子迄も振り捨てゝ仇し女に情を重ね不義の快樂に耽る人似人の往々世上に現はれ果ては三面雜報に生耻を曬すに至れることこそ忌々しくも畏てき限りなり爰大和町一丁目は韓洋亭の直ぐ向ひ側に魚商を營める川瀨某とかいふ今年四十に近き分別盛りの男あり店は二三の賣子さへ使ひ可なり繁昌の方なるが其所に今年取つて二十四五の色のクッキリと白い眼のパッチリとした世話女房らしい女ありけるが日々帳場格子の前に据りては客に振り蒔くれ世辭の言葉さへいとも巧みに誰が眼にも昔偲はるゝ婀娜姿の唯の素人ではなく近頃は近所のものゝ評判になり居れるなり此奴面妖なとダン〳〵樣子を探つて見し所果して下に書き出す如き事實を發見しにき却說女といふは名を高といひ生れは福岡のものなるが丁度今より三年以前家のゴタ〳〵よりあられなう女の身の自暴糞を起して故鄕を飛び出し仁川にと來りしはよきも別に金とてはなし一時は路頭に迷はんとせしが幸ひ親より授かりし大事な武器は女の度胸を据ゑると共に爰に使用され資本要らずの誤賣買に大分助的の血を絞りしが元來此の女一寸謎皮の剝け居る上に愛嬌のある所から色に濁へる連中はれ高〳〵と逆上せ上るといふ有樣なるより本人スッカリ得意になりマッ此の分ならばと切々と娼賣大事に勵みたる甲斐ありて難て物の二年も經つか經たぬ中に豪氣にも五六百圓の金を儲け出したればヤレ嬉しやと安心し此れよりは更らに滿州へで [illegible] 只管渡滿の時機を窺いつゝありし矢先き諸なくも前記の川瀨某と知り合ふ仲になり果ては定りの情約成立して一家を持つことゝなり高が望みの魚商を始むることゝはなりたり

紹介欄の開設

申込規定

一、希望者は住所氏名を詳記し本社營業部宛にて申込むべし但し氏名住所掲載を求むる場合は特に其旨を原稿に附記することを要す

二、申込事項は交際、婚姻、養子、緣組、雇人、並に雇入等諸般の人事又は土地建物其他諸般物件の賣買貸借等の希望に限る

三、掲載行數は五號活字十九字詰三行以内にて參回を超へざる範圍内に止む

右は世間の御便宜を計るの趣意より無料にて本紙廣告欄に掲載可申候に付何人にても無御遠慮陸續本社へ御申込有之べく候

尚本紙は調査部を新設し財產及信用等諸般の調査事項の委託に應ず

九月　京城新聞社

●夫婦喧嘩

夫婦喧嘩は犬でも喰はぬといふが犬どころかピンデーでさへも相手にせざるべし時は昨日午前十時頃長谷川鐵橋附近の或るオンドルの前に人の黑山を築き居りしが多分韓人共の喧嘩ならんと群集の袂を押し分け押し退けてヤッと前の方に進み事の有樣を見物せしに這は又如何の譯合にや一人の人夫體の男右手に大ナイフを振り翳し阿修羅王の如く荒れに荒れ廻る其後より二三人の男寄つて集つて各々手を押さへ足を取り「マア〳〵危ない其のナイフを放たんか、嘩を殺して何うなるか」と頻りに其の男のナイフをもぎ取らんとアセりつゝありしが多勢に無勢終に其のナイフは難なく男の手より取り放たれたるが聞けば此の男は人足にて此日朝より女房と喧嘩せしが頓て下等社會の癖として男は抽斗の中より右の大ナイフを取り出し嘩を切るの殺すのご斯る人騷がせの近所迷惑を演せし次第なりといふ

●酌婦の泥棒

福岡縣生れ現住居大和町二丁目二百三十一番地料理店松廼屋事則兼吉方酌婦別府シヅ（十九）は六日頃忠淸南道天安郡天安邑飮食店松浦ナツの雇女なりし中途ましき心根を起しナツ所有の絹衣一枚を盜みたるにナツの家にては居心地よくなきより三日程經てシヅはナツより暇を取り其家を出で去りて當地に來り照義門通料理店末廣事森與太郎方の酌婦となりたるが此家も二三日勤めしばかりにて忽ち姿を隱したり扨てナツはシヅが家出をすると間もな

●落し文

此落文はソンジョソコラのれ方は御存じならんが兎に角此に掲げて讀者のれ笑ひ草までにと三面子爾云ふ

吾れに誠あればこそ胸の苦悶も腸の遺恨も淡泊に打明る次第に候へば幸に生の心事を解して單純なる一紙の文句に氣を咎 [illegible] 夜九時頃までには蛇度伺ふからとの御言葉を小生は眞にうけて當夜は九時までも十時までも待ました（中略）男の心と秋の空とはよく世間に言ふ文句に候が生は却て女心と秋の空と言度候（中略）役所を缺勤してまでも今日は如何ならんと待ちし小生の愚さ自分乍ら我身に悔入り候今更吾が不平を並べたとて更に何等の甲斐なき過去の事なれば此より以上には最早發言の甲斐なきを信じ候（中略）君に問ふ君は吾れを何と解し給ふや以上不一

一東肖

戀しき信子樣



●赤痢

京城本町七丁目六十番戸廣池ヨ子（三十）は十六日赤痢に罹り青坡病院に送られたり

●醫師開業

前漢城病院耳鼻咽喉科眼科主任として數年間勤續して頗る令聞ありし醫學得業士中村健吉氏は來る廿一日より本町二丁目四番戸（元岩田寫眞館跡）に於て耳鼻咽喉科眼科外科の診療に從事するよし

●岩田寫眞館の移轉

岩田寫眞館は豫て南大門通り第一銀行建築場前に家屋新築中の處此の程工事落成し諸般の設備も理想に近く出來上りたるを以て來る廿日頃移轉し其の披露として十月一日より向ふ三十日間定價より二割引にて今回新に取寄せたる歐米最新式機械を應用し撮影す可しと

●紹介欄の効果

本社が他に先んじて紙面の一部を割きて讀者の便を圖る爲め無料紹介欄を設けたる以來毎日電話にて又は自ら來社して被紹介者を問合せ來るもの續々にて何れも非常に効を奏しつゝあるが明治町一丁目の櫻井時計店よりは紹介欄にて直ちに片付きたりとて態々禮狀を寄せられたり此紹介欄が如何に奏效しつゝあるか以之に依りても知るべきなり

●太陽館の新築落成

龍山旭橋通りの旅館太陽館は過日來龍山停車場前に新築中なりしが此程落成移轉したるが同館は諸官衙へも近く風光明媚にして設備亦完備し階上には五十疊敷の大廣間ありて宴會にも適し娛樂用として球突臺の据へ付もあれば旅客の便利此上もなく龍山唯一の旅館といふべし

●壽座本日の藝題

木村猛夫一座本晩の藝題は「想夫憐」にして場割役割は左の如し

場割

大阪天王寺楓寺、中野清助宅、京都岩崎家廣間、雅子の居間、隱居所、岩崎家奥庭、堀外天神橋、蛇ヶ池投身、岩崎一斎書齋

重なる配役

岩崎新夫人雅子　野村君子　れ駒（花井シゲ子）　女中れ玉（高尾）　岩崎一斎（内藤）　岩崎未亡人（矢野）　井原健輝（松村）　森田幸次（福井）　井原浪子（坂本）　小泉修蔵（寺田）　中野清助（木村）

（開）（答）

▲貴紙一面に掲載してある俳句會へ入會したいのですが何ういふ手續をしたら可いでせう（俳句好）

（一）（東）

▲別に手續きとか何んとか六ヶ敷い事はありません本社翠山生の許迄れ知らせ下さらば取り斗つて上げます（係り）

△畔花生に告ぐ君が每度の投書は大に謝しますが可成簡にして明ならんことを希望いたします（係り）

▲黑川淸岩生に告ぐ君が文藝についての熱心さ加減は誰に敬服に堪へませんが此れ又文章が長過ぎます又文章の質は決して惡くはありませんが何法及び接續詞の所で全體を毀して了ふ事が間々あります御注意なさい（記者）

▲小品文は何行位に限りますか（明治町村上春吉）

▲マッ普通十行多くて十三四行（文壇主任）

▲ひで子に告ぐ君の文はナカ〳〵面白い最初の分は昨日の一面に載つて居ります二度目のも昨日落手しました（みどり生）

▲小生が去る頃寄書せし論文は未だに掲載せざるやうなれ共然に物にならざるにや（南山町碌骨生）

▲失禮ですが今少しく文章を修練なさい第一論旨が幼稚です（二面記者）

▲僕の文章を添削して頂きたい至囑（古市町三番戸清水）

▲閑があれば添削して上げますが何分多忙ですから斷り申します但時日を限らねば短かいものならいたして上げます（係り）

▲貴紙御開設の紹介欄は一件につき何日間れ願ひ申すことが出來ますか（旭町三丁目三十三番平川）

▲紹介欄の規定を御覽なさい（紹介欄係）

富本半平の身上（七）

何だか知らないが買物なら今日は御免だと見ぬ先から劔つけに掛るのを民中は落ち付きはらつて夫れが了只の買り物で無いのだから買つてれくんなさいといつて取り出した物がぜいふどれせきど善孝さんの片ツぽ宛の下駄なんです師匠お前さんが御不用といふのなら向け口は澤山にある何なら家の女房に買つて貰いましようかと立掛るので流石の善孝さんも此には閉口しム丶買つてやるよ〳〵と何程かのお金を与ウ〳〵と較取られた相ですがエヌリをするにしても鳥渡愛嬌がるるぢやアありませんか御存じの方もムいましようが先づ本仁和賀十五日間續すとして其間に雨が降ると當今と違つて其頭は仁和賀を休み〳〵しましたから銘々骨休めのつもりで呑れ廻りの酒盛が始まる其席で幾つた洒落でも出來ると鳥渡といふんで席を外して會所へ往き今から雨降を出しますからと斷はると會所ではそうかとひふんで直ぐ夫れをフレて廻る拍子木打ちの人足を付けて與れる其處で其洒落に因んでスツカリ形を拵へ吉原中を流して廻るんでムいますが宜い事には一人でも二人でも出來るから至極簡便です流運でもなすつて徒然に苦んでるれ客樣などは今日は雨だからいまに雨降が來るだらうと樂にして待ち〳〵なすつた位でした然し簡便なだけに日に何囘といふ事は無く出ますのですから夫りやア下ら無いものもあり中には卑猥はしいのなんぞが雜ります所から自然警察の御注意で出來なくなつちまつたんですか實際惜いものでムいます何しろ其日一日其場限りのものでしたから此奴ア面白いナと思つて居ても日數を經るに連れ忘れちまいましたが覺ねてるうちの一ツ二ツをれ咄致しましよう

例の通りカーチ〳〵といふ拍子木のフレが廻る其后から赤毛布をスツポリと頭から冠り鰹魚節を二本……角の心持ちで生しモウ〳〵といふ聲を立てながら流して往くので今のは雨降には違い無い樣だが一體ありやア何だらうと見物人何れも首をかしげて考へてると繩をより合せて鉢卷にし黒の羽織を衣の樣に着こなし竹箒を小脇にかい込んで長刀のつもりノツリ〳〵と足を運びながら「ら此處へ只今牛赤（牛若）は參りませんか」スツカリ魚屋の拵へで向ふ鉢卷如何にも威勢よくやつて來て「今日はッ」といふ聲と共に肩から荷を下し「今日はシケで別に變つたものアありませんアヂばかりです」と謂いながら盤臺の蓋を開けて見てビツクリし中に入れて來た擂木を取り出して「サア大變〳〵餘まり急いで來たんでアヂ（足）がスリコギになつた」此れ等は奇麗事で至極面白いぢアありませんか餘り長くなつては皆樣方に欠伸の種をまく樣なもんで甚だ恐れ入りますから手前の馬鹿物語も一先づ此邊で御免を蒙むる事に致しましよう（完）





●新聞料 一枚金二錢▲一ヶ月前金五拾錢▲三ヶ月壹圓四拾錢▲六ヶ月前金貳圓▲郵稅一ヶ月金拾錢
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回四十錢 廣告五號活字十九字詰一行金五十錢
發行兼編輯人 秋山忠三郎
印刷人 高木久馬太
發行所 京城西部四小門通 京城新聞社 電話六六三番